



**2024年度 年主題〈さあ、漕ぎ出そう 奏でよう〉**

**0・1・2歳児10月主題「ひろがる」**  
月のねがい  
◎保育者と一緒にさんびかを歌おうとする (0) ◎全身を使って繰り返し遊ぶ (0) ◎思っていること、見たことを身体で表現しようとする (0) ◎保育者や友だちと一緒に祈りさんびする (1.2) ◎友だちとの関わりを楽しみ、様々なことを共有する (1.2) ◎季節の移り変わりを全身で感じる (1.2)

**3・4・5歳児10月主題「みんなちがってみんないい」**  
月のねがい  
◎神さまからいただいている一人一人の賜物が大切にされる (3) ◎好きな遊びをじっくり繰り返す中で、試したり、自分なりに工夫してみようとする (3) ◎戸外で身体を動かすことも楽しみ、友だちの姿を見ながら自分もやってみようと思う (3) ◎神さまが一人一人を愛し養って下さっていることを知り、喜び感謝する (4.5) ◎一人一人その人(子)らしさに気づいて、おもしろさや楽しさ、素晴らしさまた難しさも感じ合う ◎空の美しさや風の気持ちよさを感じながら、心身を伸びやかに動かして過ごす (4.5)



**おすもう大会頑張ったね！！**

朝晩が段々涼しくなり、秋らしい季節になりました。先日はお忙しい中、おすもう大会にはたくさんの声援をいただきありがとうございました。9月に入り、おすもう大会に向けておけいこを始めた子どもたち。日本の伝統的なスポーツの一つである相撲の意味を知り、作法を大切にしながら毎日おけいこに取り組んできました。その中でも蹲踞(そんきょ)は足を開き、お尻をかかるとに乗せる体勢がとても難しく苦戦するのですが、「布団の上でもおけいこをしているよ！」と、お家でのおけいこの甲斐もあって、日々たくましい姿を見せてくれました。何よりも体幹を鍛えることのできる素晴らしい経験ができたと思っています。本番では2歳の取り組みから5歳児の取り組みまでを見ていただきました。

可愛らしい2歳児さんも、自分の四股名を呼ばれると一生懸命に「どすこい！」と声を出す姿にほっとすることができたのではないでしょうか。3歳児さんは去年よりも一回り大きくなり、色々な感情が入り交じりながらの取り組みでしたが、これを乗り越えたことで自信へと繋がったことではないでしょうか。4歳児さんは少ない人数での取り組みということで、緊張や恥ずかしさが見え隠れしていましたが、最後まで諦めずに取り組む姿に感動をもらいました。

そして5歳児さん。堂々とした立ち振る舞いから気合いが伝わり、本当に白熱の戦いが繰り広げられ、最高の取り組みだったと思います。勝ち負けにこだわらずに真剣に取り組んだおすもう大会。応援された保護者の皆様にも感動をお届けすることができたのではないのでしょうか。5歳児さんの勇姿を目に焼き付け、来年度もおすもうが楽しい！やりたい！と思ってくればいいなと思っています。おすもう大会が終わり、次は運動会に向けて本格的におけいこがスタートします。かけっこやリレー、親子競技と楽しいプログラムが盛りだくさんとなっていますので、どうぞお楽しみに。そして季節の変わり目で体調を崩すことなく本番を迎えることができるように、ご家庭でのサポートもよろしくお願い致します。



**今月の聖句** 「ひとりよりもふたりが良い。」 コヘレトの書4：9

聖書によると、創造の神は、全ての自然環境を整えてから、人であるアダムを創造なさいました。アダムの周りにはありとあらゆる動物たちがいましたが、アダムの寂しさが埋まることはありませんでした。そこで、神さまはアダムにエバを与え、それによって二人は生き生きと生きることが出来るようになりました。「人」という漢字は、人と人が支え合っている様子を現しているとも言います。私たちは皆例外なく、家族や友人など豊かな人間関係の中で自分自身を形成していく存在なのです。

園でも、子ども達は沢山の人たちに囲まれて育ちます。一人っ子も園では大家族の一員です。先生や友達と沢山の思い出を作りながら、それぞれの家庭とは少し違った人間関係の中でスクスクと育っていきます。時には喧嘩することもあるでしょう。親も先生方も冷や冷やする場面があるかもしれませんが、けれども、長い目で見れば、そういう経験の一つひとつが、子ども達を育てあげる大きな肥しになります。子どもは大人が想像もしないことをやる場合がありますが、それをも受けとめ、導いて、修正すべきところは修正出来る大人でありたいと願います。幼児期に友だちとの和解の経験が出来た子は、大人になってからもその下地を持っているから、きっと赦し赦される人間関係を築いていくことができるでしょう。そのようなダイナミックな人間形成は、一人では決して出来ません。二人、三人がいる関係の中であって、初めて出来ることなのです。 協力牧師 池田基宣



**10月の行事予定**

3日(木)	実りの秋パーティー
8日(火)	運動会予行(弁当)
13日(日)	市民体育祭参加(年中・長)
19日(土)	運動会(雨天：種子高)
20日(日)	運動会予備日(雨：種子高)
21日(月)	振替休日(1号預り：弁当)
23日(水)	牛見学
29日(火)	10・11月誕生会・試食会(た)



**11月の行事予定**

5日(火)	学校へ行こう(年長児)
8日(金)	秋の一日遠足
14日(木)	給食試食会(こすもす)
16日(土)	役員会
"	入園説明会(11:00~)
27日(金)	クリスマス会予行・弁当日



今を全力で生きる

さすがに十月の声を聞き始めると、朝夕がめっきり過ごしやすくなりました。今年の夏も猛暑で、クーラーの効いた部屋で過ごすことが多かったのですが、やっと外遊びも出来るようになってきました。運動会を意識して、グラウンドでかけっこをしたり綱引きをしたり、年長児はマーチングの稽古も始まっています。去年のお兄ちゃんたちがやっていたのを覚えている子どもたちは、「太鼓がしたい！」「3個太鼓がしたい！」と意欲があり、したいことを言葉で表してくれます。

毎年のこの時期は、子どもたちの心身の変化の芽生え、特に体を使える事への気づきを感じます。相撲では、自分でも驚くくらい力が出せたり、ギリギリのところまで踏ん張れたりします。かけっこでも、手と足の動きの協調ができて、いつの間にか早く走れるようになっていきます。ある日、そのことを子ども自身が発見し、驚きと共に小さな自信が芽生え始めるのでしよう。そこで見せる目の輝きに出会えることは私たちの至福の喜びとなります。だから運動会には秋なのです。幼児期の生活はあそびを土台にして展開していきます。一つのことを忘れて熱中する姿は、ただ今を懸命に生きていく証です。

マザーテレサはこう言いました。「もう存在しない過去に、いつまでも縛られてはいけません。過ぎ去った過去に「あんなことがあったから、私は一生不幸だ」と考え、今を支配させてはならないということです。過去を振り返ることも大切ですが、それは今をよりよく生きるため。今を決めるのは私たち自身であるということです。今を生きる。また、「まだ存在していない将来を、今から心配する必要はない」とも言っています。私たちは程度の差こそあれ、現状の悩みや問題を抱えており、将来に対する不安も持つ者です。まだ起こりもしないことをネガティブに想像してしまいがちです。しかしよく考えてみると、悪いことが起こることと同じくらいそれ以上に、たくさんよいことも起こっているわけですから。人間は、よいことを想像する力が元来弱いのかも知れません。子どもたちは、子どもたちの今を大切にすることを、だからといって遠い未来の準備のために今をないがしろにすることは本末転倒です。日々の遊びから生まれる意欲や興味・関心を高めることはもちろん、子どもたちには、粘り強さや何度でも挑戦する気持ちを育てたいです。「次も頑張るぞ！」「明日もしたい！」が非認知能力の醸成に繋がっていくのではないのでしょうか。親も保育者も、彼らの育ちを支える重要な環境の一つ。私たちも今を全力で生きてまいりましょう。

子どもたちも今も活発な活動を展開する実りの時期になりました。ゆつくりと周囲の自然を観察しながら落ち着いた時間を満喫したいと思います。大きな行事の運動会を迎えませんが、何より子どもたちのしたいことを通して、いのちはずむ時となることでしょう。早寝・早起き・朝ごはんをよろしくお願ひします。

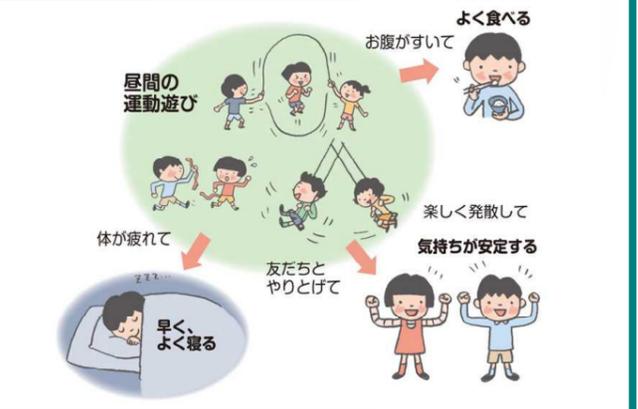
園長

**運動の秋・食欲の秋**

近頃朝晩が涼しくなってきた、だいぶ過ごしやすくなりました。今年の夏も猛暑で、クーラーの効いた部屋で過ごすことが多かったのですが、やっと外遊びも出来るようになってきました。運動会を意識して、グラウンドでかけっこをしたり綱引きをしたり、年長児はマーチングの稽古も始まっています。去年のお兄ちゃんたちがやっていたのを覚えている子どもたちは、「太鼓がしたい！」「3個太鼓がしたい！」と意欲があり、したいことを言葉で表してくれます。

意欲 集中力 積極性 自己統制力 社会性

こども園という集団の中で過ごしている子どもたちは、周りの環境に刺激を受けながら心を動かしています。素敵だな！やってみたいな！という意欲が生まれ、集中してやり遂げようと頑張ります。また、友だちと



意見を交わして力を合わせることを楽しむ姿も現れてきます。4月からの子どもの姿を考えますと、とても嬉しくなる成長です。たくさん遊んで、体を動かしてお腹がすく。ご飯が美味しい。夜もぐっすり寝る！嬉しいことに、心と体のリズムが整っていくのです。秋の運動会はまさしく、生活習慣の確率と生活リズムの形成に役立っているのだと改めて感じています。どうぞ、保護者の方々も子どもたちを応援していただきたいと思っています。 副園長